

主 題：だれを遣わそう
聖書箇所：イザヤ書 6章1－8節

富岡昌宣教師のプロフィール：

埼玉県出身の耳鼻咽喉科の医師、病院勤務のかたわらバングラディシュ宣教の志を立てられて、神学校で学んだ後、1985年に渡米、研修を受け宣教師の資格を取得。1990年10月、念願のバングラディシュに家族とともに入国、ナトールの病院を足場に医療宣教に励んでおられる。当初は医師不足のため専門外の外科や、ときには産科の仕事までしなければならないこともあったとのこと、また、気候風土の違い、ヒンズー教、イスラム教が盛んな土地柄で、政治的な圧力が強く、治安も悪い厳しい環境の中で、ベンガル語を駆使して活発な宣教活動を行なっておられる。

ご家族は夫人（良子さん）、長男（献くん）、次男（貢くん）、長女（麗さん）で、当初は揃ってお父さんの活動を手伝っておられたが、成長されて後は献くん、貢くんは米国の大学院を卒業して就職、麗さんも今春米国の大学を卒業され、この5月にはナトール・バプテスト教会で結婚式を挙げられた。

近藤牧師より：

今日、みことばのご用をしてくださるのは私たちの愛する富岡宣教師です。私たちは先生の働きを覚えて祈っています。12年ぶりに（前回は1996年）当教会にお越しくださって、神がどのような働きを先生を通して成してくださったのか、そのようなこともお聞きできるでしょう。また、神が先生の心に置いてくださったみことばを私たちは聞くことができることを感謝します。バングラディシュ・ナトール県における医療宣教の働きをまとめたものがありますから、読んでくださって先生ご家族のために覚えてまた祈り続けていただきたいと思います。今年の10月でバングラディシュに行かれて18年ということで、恐らくあっという間に月日が経ったことでしょう。私たちも先生の働きのほんの小さな一部を担うことができて神に感謝しています。今日、先生が神のみわざを取り次いでくださること、私たちは期待をもって、祈りをもってこの時間を迎えたいと思います。

富岡宣教師、メッセージ：

私たちの働きを覚えて皆さまが常日頃お祈りくださって本当に心から感謝いたします。また、教会からの尊いサポートを私たちのために送ってくださり、バングラディシュでの医療宣教の働きを助けてくださっていることを心から感謝いたします。私たちが最初にここにお伺いしたのは19年くらい前になりますが、そのときから浜寺聖書教会の皆さんがサポートしてくださっていることを心から感謝申し上げます。私のような小さな者をバングラディシュの地で神が用いてくださって、また、今まで挫折しそうなときも多々ありましたが、支えられて18年間バングラディシュの地で働かせていただいたことも、皆さんが覚えて祈ってくださったからです。本当に感謝いたします。

私たちの三人の子どもたちは最初に伺ったときから成長し、私たちの子育ては終わったという感じです。長男は30歳、仕事をもち結婚して家族とともに今アメリカにいます。次男はまだ独身ですが29歳になって今東京でJR東日本で働いています。娘は5月3日にボブジョーンズ大学を卒業することができました。バングラディシュの青年と結婚に導かれ5月16日に結婚しました。あと2年間、大学での学びを続けるので8月に戻る予定です。私たちは5月23日に帰って来ましたが、今回は9月16日まで滞在する予定です。それ以降、またナトールに戻って続けて医療を通して、また、学校の働きを通して伝道して行きたいと願っています。続けてお祈りに覚えていただきたいと思います。

今日はイザヤ書6章から語らせていただきます。メッセージのテーマは「だれを遣わそう」です。

6：1－8「ウジャ王が死んだ年に、私は、高くあげられた王座に座しておられる主を見た。そのすそは神殿に満ち、：2 セラフィムがその上に立っていた。彼らはそれぞれ六つの翼があり、おのおのその二つで顔をおおい、二つで両足をおおい、二つで飛んでおり、：3 互いに呼びかわして言っていた。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主。その栄光は全地に満つ。」：4 その叫ぶ者の声のために、敷居の基はゆるぎ、宮は煙で満たされた。：5 そこで、私は言った。「ああ。私は、もうだめだ。私はくちびるの汚れた者で、くちびるの汚れた民の間に住んでいる。しかも万軍の主である王を、この目で見たのだから。」：6 すると、私のもとに、セラフィムのひとりが飛んで来たが、その手には、祭壇の上から火ばさみで取った燃えさかる炭があった。：7 彼は、私の口に触れて言った。「見よ。これがあなたのくちびるに触れたので、あなたの不義は取り去られ、あなたの罪も贖われた。」：8 私は、「だれを遣わそう。だれが、われわれのために行くだろう。」と言っておられる主の声を聞いたので、言った。「ここに、私がおります。私を遣わしてください。」

第一礼拝・メッセージ (要約)

主は「だれを遣わそう」ということで主のために働く人を求めておられるということがここから分かります。祈ります。「天の神さま、このとき再び私たちの心に必要なみことばを語りかけてくださるようお願いいたします。私たちの信仰を強め、また、私たちの信仰にチャレンジを与えてくださるようお願いいたします。また、語るこの者を聖めてくださって、今すぐにあなたからいただいているみことばを語れるように助けてください。イエスさまの御名によって祈ります。アーメン」。

☆だれを遣わそう

1. 主はきよめられた者を遣わそうとされる。 3節

3節に「**聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主。その栄光は全地に満つ。**」と書かれているところから、主はきよくなった者を奉仕のために、みことばを宣べ伝えるために、主に仕えるために用いられるのです。私は1974年22歳のときに信仰をもちました。救われた喜びのうちに神のために働こうという思いをもちながらも、病院で医師として働いていました。その仕事はとても好きで毎日一生懸命働きましたが、1981年、霊的にもっと神のために働きたいという願いをもちました。その折に、バングラディシュへ医療宣教師として遣わされるという道が示されました。懸命に祈りました。ヨシュア記1：3のみことば「**あなたがたが足の裏で踏む所はことごとく、わたしがモーセに約束したとおり、あなたがたに与えている。**」に確信を持ちました。1982年から神学校で学ぶことからこの働きスタートを切ったのです。3節の「**その栄光は全地に満つ。**」のように学びによってきよめられて行きました。1990年、バングラディシュへ入りましたが、それはイエス・キリストによる訓練の場として私に与えられたところです。ムスリム（イスラム教徒）の国にあって、伝道と教会の設立を目指しました。1996年にはまだ教会がありませんでした。しかし、その前に土地が与えられていたので会堂の工事を始めようとしたときでした。ムスリムからの激しい反対の中、1998年に会堂が完成しました。I ペテロ1：7に「**信仰の試練は、火を通して精練されてもなお朽ちて行く金よりも尊いのであって、イエス・キリストの現われのときに称赞と光栄と栄誉に至るものであることがわかります。**」とありますが、これらのことを通して神により頼むことを学ばされました。神はムスリムの国にも働いてくださってご自身の栄光を現わされるのです。

2. 神は謙遜な者を遣わそうとされる 5節

3節の**ことば**を聞いたイザヤは自分の罪、汚れに気が付きます。5節「**そこで、私は言った。「ああ。私は、もうだめだ。私はくちびるの汚れた者で、くちびるの汚れた民の間に住んでいる。しかも万軍の主である王を、この目で見たのだから。」**と、このような謙遜な態度に導かれました。神は謙遜な者を用いたいと願っておられます。自分の力で何でもできるという人ではなく、主の前にへりくだって主に拠り頼む、そのような謙遜な者を用いられます。マルコの福音書7：20－23にはこのように書かれています。「**また言われた。「人から出るもの、これが、人を汚すのです。：21 内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、：22 姦淫、食欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、：23 これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。」**、私たちはみなこのような者です。イザヤ1：18には「**さあ、来たれ。論じ合おう。**」と主は仰せられる。「**たとい、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。たとい、紅のように赤くても、羊の毛のようになる。**」とあり、主によって聖くされ謙遜にされた者は主に用いていただけるのです。クリスチャン一人ひとりには神から賜物が与えられています。それは人と比べるものではありません。I コリント12：4－11に「**さて、御霊の賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。：5 奉仕にはいろいろの種類がありますが、主は同じ主です。：6 働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。：7 しかし、みな益となるために、おのおのに御霊の現われが与えられているのです。：8 ある人には御霊によって知恵のことばが与えられ、ほかの人には同じ御霊にかなう知識のことばが与えられ、：9 またある人には同じ御霊による信仰が与えられ、ある人には同一の御霊によって、いやしの賜物が与えられ、：10 ある人には奇蹟を行なう力、ある人には預言、ある人には霊を見分ける力、ある人には異言、ある人には異言を解き明かす力が与えられています。：11 しかし、同一の御霊がこれらすべてのことをなさるのであって、みこころのままに、おのおのにそれぞれの賜物を分け与えてくださるのです。」とある通りです。マタイ20：28ではイエスがこのように言われています。「**人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。**」。**

3. 神は自主的にささげる者を遣わそうとされる 8節

イザヤは神から「**だれを遣わそう。だれが、われわれのために行くだろう。**」というみことばを聞きました。そこで彼は「**ここに、私がおります。私を遣わしてください。**」と答えます。自発的にささげて主のために働きたいと願っている人を神は用いたいとされます。

マタイ11：29－30「**わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。：30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。**」、困難な中でも神から平安と喜びが与えられているから、心に本当の満足があり、霊的

な安らぎがあります。主は働く人を求めて捜しておられます。

第二礼拝・メッセージ

第二礼拝でも同じテーマ「だれを遣わそう」で語らせていただきますが、特に考えたいことは9－10節のみことばです。「すると仰せられた。「行って、この民に言え。『聞き続けよ。だが悟るな。見続けよ。だが知るな。』：10 この民の心を肥え鈍らせ、その耳を遠くし、その目を堅く閉ざせ。自分の目で見、自分の耳で聞き、自分の心で悟り、立ち返って、いやされることのないために。」」、ここで主がイザヤに言われたことは「あなたが語ろうとしている民は本当にかたくなだ」ということです。イザヤが語ろうとしているイスラエルの民は心がかたくなで変わらない、耳を閉ざし目を堅く閉じているから、神のみことばを語っても人々は受け入れないだろう、イザヤが遣わされて行くところは本当に困難な地であると、そのように言われているのです。

☆だれを遣わそう

1. かたくなな困難な地にも福音が必要である

イスラエルの民がかたくなであることは神は初めからご存じでした。イザヤが民にみことばを語ろうとしても素直に受け入れない、人々の心は堅く閉じていて、耳があっても堅く閉じて聞き入れない、目があっても神のみことばに目を向けない、本当にかたくなである、そのようなところにイザヤを遣わし彼らのところに神のみことばを届けようとしたのです。神はそのようななかなか悔い改めない、神のことばを受け入れない、イエスのことを語っても語っても頑固で心を閉じてしまっている人々、そのようなところにも神のみことば、福音を届けたいと思っておられるのです。ヨナという預言者、皆さんご存じだと思いますが、神は彼をニネベという町に遣わされます。ヨナは初めに考えました。あのような町、人々は神のことなど全く考えない、世的なことばかりに忙しく神のことに耳を傾けたり目を向けたりしない、そのようなところでみことばを語っても何の益にもならないから、そこには行きたくない。しかし、主はかたくなな人々が悪に染まり、世的なことでは忙しくしているそのような町にも救われる人はいるのだと、ヨナを遣わしたかったのです。最後に神はこのニネベの町についてこのように言っておられます。ヨナ書4：11「まして、わたしは、この大きな町ニネベを惜しまないでいられようか。そこには、右も左もわきまえない十二万以上の人間と、数多くの家畜とがいるではないか。」と、どこに行けば本当の救いがあるのか分からないような人がたくさんいるこの町について「ニネベを惜しまないでいられようか」と言われたのです。私たちはバングラディッシュに遣わされています。皆さんご存じのようにバングラディッシュはイスラム教が優勢な国です。国全体の86%がイスラム教、14%がヒンズー教です。私たちのいるナトール県はほとんどがムスリムです。ムスリムの人たちはキリスト教を毛嫌いしています。なぜなら、私たちはイエス・キリストは神の子であり、私たち人間の罪のために死んでくださった神のひとり子であると信じて疑っていないからです。私たちはこのイエス・キリストを信じることによって永遠のいのちが与えられる、罪から救われるということを信じています。そのことをムスリムの人たちに言います。彼らはイエス・キリストの存在を知っています。旧約聖書のたくさんの預言者の名前を知っています。イエス・キリストは偉大な人物だと信じていますが、神とは信じていないのです。ですから、私たちがイエス・キリストは神のひとり子である、神であると言うと、彼らは冷静に聞けないのです。イスラム教徒はみなそうです。ですから、クリスチャンがイエス・キリストを神と信じていることが我慢できないのです。そのようなかたくななムスリムがたくさんいるところに私たちは遣わされました。神はそのようなバングラディッシュの人々、一億四千万人と日本よりも人口は多いのですが、その人たちを見捨てたくないと思っておられるのです。イエスはあるとき言われました。「また、群衆を見て、羊飼いのない羊のように弱り果てて倒れている彼らをかわいそうに思われた。」（マタイ9：36）と、神は心をかたくなに閉じてイエスの教えを頑固に拒む、そのような国にも福音が必要だと考えておられます。ですから、私たちもそのような国に宣教師として遣わされて行きました。先ほど、10名の若い兄弟姉妹が前に立たれましたが、アメリカからわざわざ大きな犠牲を払ってこの日本に来てくださいました。日本人のほとんどは神のことについて救いのことについて無関心です。特に、若い人たちは宗教などまったく自分には必要ない、関係ない、自分の日々の生活に満足している（本当は満足していませんが）、そのような国を愛して、そのたましいが一人でも救われるようにと、それが彼らの第一の目的だと信じています。クリスチャンは日本でもバングラディッシュでも恐らく1%に満たないと思います。人々はイエス・キリストのことを聞きたくない、受け入れたくないのです。自分の今までの生活を守りたいのです。ムスリムもそうです。ムスリムの枠から抜け出せない、そのようなところにいます。しかし、主はかたくなで困難な地にも福音を届けたいと思っておられるのです。私たちはそのようなところに遣わされて行きました。私たちだけならすぐにへこたれて日本に引き上げてしまったことでしょう。教会のたくさんの皆

さんのお祈りがバックアップとなり、支えられて今まで働かせていただいています。私たちは今、ナトールからいろいろな村に伝道する機会が与えられています。最近、道が開かれたところはカクラチュリ県でバングラディッシュの一番東の方で、ミャンマーに近いところです。その辺りはたくさんの小部族がいてそれぞれ自分たちの文化、宗教を守っています。そして、自分たちのことばがあります。バングラディッシュの共通語はベンガル語ですが、彼らは自分たちの言語を守っています。そのような小民族に伝道しても余り益にならないのではないかという人もいますが、私たちはそこに最近伝道の道が開かれたので、教会としてナトールから人を送って伝道することを決定しました。そこは特にミャンマーに近いところなので仏教徒がたくさんいます。この国に仏教徒はわずかですが、そのようなところに神は道を開いてくださったのです。ナトールから500キロも離れた遠いところですから、多くの時間、費用、労力が掛かります。いろいろな言い訳が出て来るかもしれませんが主が導かれたのです。そこにいる一人のクリスチャンが、ぜひ私たちのところに来てください、聖書を教える人がいないから、求めている人がいる、聖書について知りたがっている人、信じたいと思っている人がいるからぜひ来てくださいと言って招いてくださったのです。使徒の働き16章にありました。マケドニアの人たちの叫び、16：9「ある夜、パウロは幻を見た。ひとりのマケドニア人が彼の前に立って、「マケドニアに渡って来て、私たちを助けてください。」と懇願するのであった。」、パウロは彼らの叫びを聞きました。そのようなわけで私たちはそのカクラチュリに伝道することになりました。主はそこにも救われるべき人がいると言われるので、みことばを伝えるためにナトールから人を遣わすことになりました。

神はこのように困難な地、救われる人が少ないところに福音はいらないと私たちが考えてしまうようなところに、みこころとしてそのようなところにも福音を宣べ伝えたい、人々が救われてほしいと願っておられるのです。「行って、この民に言え。『聞き続けよ。だが悟るな。見続けよ。だが知るな。』」、イスラエルの人たちはかたくなでした。しかし、イザヤは神から召されて、「行って、この民に言え。」と言われました。イザヤはその神のことばを受け入れて「ここに、私がおります。私を遣わしてください。」と言って同意したのです。

2. 困難な地にも働き人が必要である

イエスがこの地上におられたときにこのようなことを言われました。マタイ9：37－38「そのとき、弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。：38 だから、収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい。」と。その後でイエスがなさったことは、いろいろなところに伝道するために12人の弟子をふたりずつチームを組んで遣わされました。それはイエスの伝道でした。イエスご自身でもいろいろな村に伝道されました。マタイ9：35に「それから、イエスは、すべての町や村を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいを直された。」と記されています。イエスも医療伝道をされたのです。イエスご自身も出掛けられましたが、12弟子も遣わされました。その後まもなく、ルカの福音書を見ると70人の弟子たちをふたりずつ遣わされたと書かれています。10：1「その後、主は、別に七十人を定め、ご自分が行くつもりのすべての町や村へ、ふたりずつ先にお遣わしになった。」、そうすると35の町や村々に遣わすことができます。

今、神は何を求めておられるのでしょうか？「だれを遣わそう。だれが、われわれのために行くだろう。」、だれがわたしのために働いてくれるのだろうか？と私たちに言うておられるのではないのでしょうか？もちろん、神は私たちのような欠けだらけの弱い者を用いなくても救うことはおできになったと思います。しかし、今、神がなさっておられることは、私たち一人ひとりを用いて福音を宣べ伝えたいと思っておられるのではないのでしょうか？イエスがこの地上におられたとき、弟子たちを遣わされて伝道されました。今も、救われた皆さんを用いたいと思っておられるのです。救われていない人がいるところに遣わされて、そこで福音を証することを主は望んでおられるのです。主は今、困難な地で働く働き人を求めておられるのです。

私たちは今、バングラディッシュで弟子訓練に力を入れています。あの国は宣教師が容易に入れない国です。いつ宣教師のビザが閉ざされるか分かりません。私たちは今もう18年になりましたが、それでも国は1年以上のビザは出しません。毎年、1年毎の更新です。毎年、信仰が試されます。ビザが切れる、また、更新されるかどうか、もう信仰だけです。いつまでおれるか分かりません。ビザがなければ滞在できませんから、もう要らないといわれたら帰らなければならないでしょう。ですから、私たちはあのイスラムの国でできるだけ現地のクリスチャンたちを強めて、私たち宣教師がいなくなっても、彼ら自身がしっかり立って教会を運営して行けるようにということで、弟子訓練に力を入れています。

また、あの国はムスリムの国ですから宣教師がトラクトを配ったり、街頭で伝道することは難しいです。すぐに、ビザが閉ざされる可能性があります。ですから、私たちが今していることは、前面に出るのはバングラディッシュ人のクリスチャンたちです。村々に遣わされて彼らが伝道しています。私たちは宣教師として彼らを強める働きをしています。弟子訓練です。困難な地でも働きを為す働き人を

主は今求めておられるのではないのでしょうか？今、この日本の地でも人々の心はかたくなで信じたくない人がたくさんいますが、ここで働く、主のみことばを宣べ伝える人がもっと必要なのではないのでしょうか？皆さんの中にも主は求めておられるのではないのでしょうか？「だれを遣わそう。だれが、われわれのために行くだろう。」と、そして、自主的にささげて「ここに、私がおります。私を遣わしてください。」とイザヤが言ったように、主のために働こうとする兄弟姉妹を、今も求めておられるのではないのでしょうか？今、私たちはナトールでクリスチャンスクールの働きをしています。生徒はナトールでは34人ですが、2つの村でもしており、合計で54人位生徒たちを預かって教えています。その中で、一般の教育もしますが、聖書を教えたいので聖書の時間を毎日もっています。おとなのムスリムの人たちに語るのは容易ではないですが、小さな子どもたちは素直に聞いてくれます。はっきり信仰告白をしてバプテスマを受ける決心をした人たちはまだ数えるほどしかいませんが、やわらかい子どもたちの心に福音の種を蒔こうと頑張っています。将来、その中から救われる人、あるいは、主のために働く人がぜひ起こされてほしいと、そのような願いをもってやっています。困難な地にも自分をささげて、犠牲を払って働く人を主は今も求めておられるのです。宣教師は楽な働きではありません。日本にいと涼しいエアコンの効いたところで快適に過ごすことができ、このように快適に礼拝することができて感謝ですが、バングラディッシュの私たちのところではエアコンがありませんから、天井に扇風機が付いているようなところで礼拝をしています。日中は暑いので私たちは朝7時半から礼拝をしています。バングラディッシュに日本から逃れて何か安楽な生活をしようという思いなら、宣教師の働きは続かないと思います。そのように困難なところもありますが、主はそこにも働き人が必要なので私たちを遣わしてくださいました。あるいは、皆さんの中にも神は望んでおられると思います。困難な地であるかも分かりませんが、そこにも福音を聞こうと待っている人が確かにいる、そこで働く人、福音を宣べ伝える人を神は今も求めておられるのではないのでしょうか？

3. 困難な地にも神はみわざを為してくださる

神は困難な地でも大いなる働きを為してくださっています。神は困難な地でも、人間の手ではできそうにないことをその大きなみ力でみわざを為してくださっています。私たちが困難を覚えたことは、バングラディシュの地で教会を建て、教会をスターとすることでした。ナトール県はムスリムが圧倒的に多いですから、クリスチャンに対する反発が非常に強いところです。最初、私たちの病院が始まったときには、クリスチャンとはどのような人物なのだろうと、クリスチャンを見たことがない人が大勢いたのです。クリスチャンが少しずつ増えて来て、教会を建てようとしたとき、ムスリムの人たちは頑張って反対して来ました。クリスチャンの教会をこの村には絶対に建てさせないとして頑張りました。神の恵みでそのような中でも私たちは教会を建てるための土地を買うことができました。道を開いてくださったのです。会堂を建てる時に困難がありました。ムスリムの人たちがまず、イスラム教徒からクリスチャンになった人たちに対して激しい迫害をして来しました。暴力を振るって、またムスリムに戻された人もいました。教会建設の工事を始めようとしていた教会と関係のない人たちを脅かして、工事をストップせざるを得なくなりました。怖かったことは木に火をつけてそれを家に投げ込んで来るのです。ある兄弟の家の一角が焼けました。また、家に石を投げ込んだりと、そのような危険なことをして来るのです。ムスリムの人たちは人を殺すこと、人を傷つけることを恐れません。警察官も恐れません。彼らの考え方は、イスラム教徒を回心させる者は悪い者だから、コーランの教えに従って徹底的に迫害することは当然としているのです。罪意識がありません。人を傷つけて怪我しようが平気です。大胆に迫害します。そのような困難な地ですが、主はみわざを為してください。主は偉大な力を現わしてください。人々はクリスチャンの教会を建てさせまいとして頑張りましたが、主はみわざをなしてくださいました。エレミヤ書にこのようなみことばがあります。32：17「**ああ、神、主よ。まことに、あなたは大きな力と、伸ばした御腕とをもって天と地を造られました。あなたには何一つできないことはありません。**」。主はみこころであるならどんなに困難な地であっても、そのみこころを為してください。主はナトールの地でクリスチャンの教会を建ててくださいました。ムスリムの人たちは反対します。教会が建ってから数知れず、レンガのかけらが天井に投げられました。礼拝をしているところ、祈禱会で集まっているところ、そのときに投げて来るのです。イスラムから回心した何人かの人たちがバプテスマを受けたとき、雨が降ってくるかのように石ころを投げられたことがありました。しかし、主は言われます、「…**何一つできないことはありません。**」と。困難な地で、私たちには何もできませんが、神はその偉大な力を現わしてください。「**神にとって不可能なことは一つもありません。**」（ルカ1：37）と新約聖書にも記されています。神は天と地をお造りになったお方です。この地上に何か一つ教会を建てる、私たちの目には非常に困難なことに見えますが、私たちとともにおられるのはこの全知全能なる生ける神です。天と地を造られた生ける主が私たちとともにいてくださいます。私たちの手には困難であっても、主は困難な地でもみ力を現わしてくださいのお方です。偉大なみわざを為してくださいのお方

す。主を崇めます。

このバングラディシュの地で働いているときに、なかなか実が見えない、なかなか前進しない、厳しい気候の中で働いて、私たち自身が弱ってしまうことがあります。しかし、主はすばらしいみことばを与えてくださっています。イザヤ40：29－31「**疲れた者には力を与え、精力のない者には活気をつける。：30 若者も疲れ、たゆみ、若い男もつまずき倒れる。：31 しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる。走ってもたゆまず、歩いても疲れぬ。**」。私たちが今まで働き続けることができたことも、神が偉大な力を私たちに与えてくださったからです。私たち自身の力でやっていたなら、すぐに疲れてギブアップしてしまったと思いますが、主はあの地で私たちに必要な力を与えて小さい者を用いてくださいました。主はみわざを為してくださいました。

「**だれを遣わそう。だれが、われわれのために行くだろう。**」と神は働く人を求めておられます。主の側に立って働く人を求めておられます。皆さんはこの呼びかけにどのようにお答えになるのでしょうか？困難な地でも神の福音は必要です。人々は待っています。困難な地でも主のために働く人が必要です。そして、困難な地で神は必ず偉大なみわざを為してくださいます。皆さんもこの「**だれを遣わそう**」という呼びかけにお一人ひとり応えていただきたいと思います。